

家庭教育支援協会

会報誌 11号

エレガントに次世代を

家庭教育支援協会理事長

二川早苗

二月、数年に一度という大雪で車道から音が消えた。子どもたちから「ママは、転ぶといけないから外に出ない方がいい」とくぎを刺された。仕方がない。私はそそっかしいのだから。それより気にかけてくれた子どもたちに「苦勞して育ててきた甲斐があった」と思いつつ、これってほんとにやさしさからだけ？それとも家事をしてくれる人がいないと困るから？となんともひねくれた問いを抱え込んでしまった。というのも、少し前にあったドラマ「逃げ恥」のセリフが気にかかっていたからだ。

ストーリーを簡単に振り返っておこう。「逃げるは恥だが役に立つ」の主人公「みくり」は IT 企業に勤める「平匡^{ひらまさ}」さんとの契約結婚で「家事代行」として



雇われるが、次第に恋愛関係になり「平匡」さんにプロポーズされる。そのとき「平匡」さんはリストラの憂き目にあっており、「みくり」と法律婚すれば雇用関係解消により給与分を貯蓄し二人の将来に備えることができると合理的に考えていた。気になった発言はこの後だ。「みくり」は、「それは、好きの搾取」だといひ「愛情の搾取に断固反対します！」というのだ。そう。アンペイドワーク「不払い労働」の問題になってしまった。

このような議論は日本でも 1960 年代からあった。なぜ、家族のために家事や育児をしても、当たり前とみなされるのか。割り切れない思いをしていた人も多かったはずだ。他方で子どもの成長は楽しみでもあるし、喜びでもある。その両義性の狭間で、その経験を名付けなおす作業のなかで、新たな意味を与えられないだろうか。人間の成長を支え、社会に貢献できる人に育て心身ともに癒しを与えてくれる家庭に価値がないはずがない。家庭は人間が生きてゆくための基本的ニーズを満たしてくれる安全基地だ。そのことは否定できない事実だ。そうであればなおのこと家庭が沈黙を強いられる場であっていいはずがない。しかるべき評価がなされて当然だ。なぜなら市場経済活動は、膨大なアンペイドワークなしでは成立しないのだから。

家庭は人間が人間らしく生きるための根幹を担っている。そのことはいくら言っても言い足りない。だから私は胸を張って言おう。家庭で行われる教育こそもっとも重要な人間教育だ。経済至上主義の精神が社会を侵食し続けるなら私たちはその間隙を縫って、家庭からエレガントなやり方で次世代育成につなげよう。祖父母から父母へ子へそして孫へ、時間と共に名付け直される存在を繋ぎとめる場は、さしあたり家庭をおいてほかにはない。

8月19日(土)に行われた日本家庭教育学会にて家庭教育支援協会より個人発表された内容をご報告申し上げます。

家庭と地域が育む子どもの自主性

—地域多世代懇談会に参画する中高生の自主性に視点をおいて—

家庭教育アドバイザー 中島佳世

本研究では、国連の「児童に権利に関する条約」、とりわけ「参加する権利」の実現を願い、「参画する意義」を子どもの「自主性」に視点をおいて検討することを試みた。そこで、同一の地域に関わる中学生から70代までの男女9名による「地域多世代懇談会」を開催し、観察法により「発話回数」から中高生の自主性の変化を検討した。



参加の中高生3名には事後面談を行い、インタビュー記録より内面における「自主性の様態」をKJ法にて分析した。その結果、発話のような行動と内面の自主性には乖離があることが分かった。更に、懇談会を通して中高生の自主性は再構成され、動機づけの変化や新たな価値の発見が生まれるプロセスが明らかになった。

考察では、子どもの参画は「内発的動機づけに基づく学び」であると結論された。内発的動機づけは、他者との相互関係性から生まれる「安心感」「受容感」によって生起し、参画から生まれた「学び」と「新たな価値の発見」は子どもをより高次元へと成長させることが分かった。自主性を育む家庭・地域の役割は、「子どもとの相互関係性」「安心感」「受容感」「自己決定性」を尊重することと思われる。

家庭の中にも子どもの意思の尊重を原則とした「子どもの権利」が保障され、子どもが1人の人間として家族と相互関係を築きながら成長できるように、今後も家庭教育を導いていきたい。

活動報告② 家庭教育支援協会第2回会員研修会

2018年1月20日

『家庭教育支援協会の活性化に向けて』

家庭教育支援協会理事 尾形有三

2018年1月20日、倫理研究所内(紀尾井町)で第二回目となる会員研修を行いました。『家庭教育支援協会の活性化に向けて』をテーマに、当協会の石井登理事と松本美佳理事による「会員活動報告」と参加者による、家庭教育支援協会活性化に向けた話し合いを行い、有意義な研修会となりました。

石井理事は、『子どもの健全な“学び”と、それを支援する“家庭環境”』をテーマに、家庭教育の観点に立ち、非認知能力の育成や親・子のカウンセリングを繰り返し、主体的な学習能力を高めることを目的とした『A.C.S.(Academic Community Service)学院』を運営、その他、講演活動やシンポジウムのサポート活動等ご

活躍中です。

松本理事は、自然療法と家庭教育を取り入れた独自のカリキュラムを「チャイルドケア」と体系付け、「命のケア」をテーマに様々な方法で提案されています。アロマセラピー、フラワーエッセンス、東洋医学などの自然療法を積極的にホームケアに取り入れたり、またベビーマッサージなどのふれあいを家庭に取り入れるなどの提案などをされています。さらにボディワーク、カウンセリングを行うセラピストとしてもご活躍中です。



お二方の活動紹介のあと、参加者と『会員の活動実態とそこから見える課題』と『活性化に向けた課題』について話し合いました。短い時間でしたが、家庭教育支援協会の活性化についてお互いの考えを共有できる絶好の機会となりました。

今回の研修内容のご提案、活動報告及び進行役をお務めいただいた石井理事と松本理事に心より深く感謝申し上げます。今回も昨年度と同様に無料通話サービスのスカイプを活用し、遠方の方に受講いただきました

活動報告③ 家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会

2018年2月3日

2018年2月3日、倫理研究所内(紀尾井町)で日本家庭教育学会主催『家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会』が開催されました。当日はご講演と・アドバイザー活動報告の二部構成で開催されました。

「子育ての極意」

家庭教育支援協会理事 尾形有三

今年度の家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会は、第一部として、日本家庭教育学会の丸山敏秋副会長による「子育ての極意」と題してご講演されました。

「子育ての極意」は、丸山敏秋副会長のこれまでのご経験に基づく大変素晴らしい内容でした。極意とは一学問や技芸などで、核心となる大切な事柄。奥義。計30回に及ぶ「教育創生フォーラム」で訴え続けてこられたとのこと。

『1. バランスをとる』、『2. 肝心なことは「見えないところ」にある』、『3. 結びに』として①「センス・オブ・ワンダー」を鍛えよう、②子供への愛が高まるスナオな心を育もうー共感力を高める、についてお話いただきました。私自身、子供への愛を高めることの大切さを再確認できる充実した時間を過ごせました。この場をお借りして丸山敏秋副会長に心より感謝申し上げます。また、第二部は、家庭教育師・アドバイザー活動報告として、家庭教育支援協会 攝待逸子様と、東京家庭教育研究所 鈴木玲子様が発表されました。

「家庭教育支援協会のこれまでの活動について」

家庭教育支援協会理事 攝待逸子

2018年2月3日に開催された交流会において、倫理研究所の丸山敏秋理事長の講演後、後半の活動報告では、設立から8年目に入った当協会のこれまでの活動について私が発表致しました。

発表するにあたり会報誌やこれまでの総会資料等を調べていきました。設立の経緯、講演会や公開講座の開催、子育てサロン、日本家庭教育学会での個人発表。また、HPの立ち上げやコラム、会員研修等、多

岐にわたって活動していることをあらためて認識致しました。講演会や公開講座もかなりの数にのぼり、その内容も会員の皆さんと共有できればと考えています。そういう意味でも会員研修にも力を入れてこれからも活動していきたいと結び発表を終えました。

毎年2月の初めに開催される交流会ですが、会員同士直接会える機会ですので、皆さんも是非、ご参加ください。



活動報告④ 会員の活動

家庭教育支援協会理事 石井登

今年はスマホが発売されて11年、日本上陸10年になります。この間の目を見張るような機能の進歩には驚くばかりです。スマホの進化は多くの“便利”をもたらしました。反面、新たな犯罪や依存症、いじめなどの問題も生まれました。

このように、家族構成の多様化、人口減少、IT技術の加速度的な進歩などによる複合的な社会環境の変化が予想される時代にあって、学校教育も『新しい教育』による教育内容や入試制度の改革に取り組んでいます。勿論、学校教育の基盤とされる家庭教育の重要さも、家族や地域の中で、再認識されることが必要となります。そこで今年度は、下記の活動を行いました。

1. 活動目的

- ・「家庭教育」についての大切さの認識及び啓蒙
- ・「家庭教育支援協会」の認知とその活動実績作り

2. 地域での家庭教育支援活動(京都府長岡京市)

《講演活動》

①市民公開講座(9月27日):『新しい学びと家庭教育』～ゆでガエルになる前に～

主催 長岡京市人権啓発推進協議会(事務局 長岡京市人権推進課)

※男性女性がともに考える子育てのテーマのひとつとして捉えた講演。

②子育て支援講座:子育て支援塾『しゃべりBA! 学びBA!』

主催 長岡京市女性交流支援センター

第1回(10月27日)「思春期の困りごと」～反抗・いじめ・不登校を考える～

第2回(11月24日)「ゲーム・スマホ・SNSが与える影響」～なぜダメなのか? 依存とは?～

第3回(12月22日)「変わる学校教育」～そして新たな学びとは～

※各回、参加者とテーマに沿って話し合い、学び合う中から、家庭での“学び”と子どもの“生きる力”について考える。

3. シンポジウムのサポート活動

・事前学習会(10月16日、11月13日):「不登校の実態と家族の対応」

※「不登校の子どもたちへの支援フォーラム」主催 京都洛中ロータリークラブ

・11月23日 会場:池坊学園こころホール

クラブ役員対象の勉強会。家庭教育の観点から講演。

